第67期

ZAOH LETTER

2022.4.1 ▶ 2023.3.31

環境を美しく健やかに
私たちは環境美化創造企業です

証券コード:9986

蔵王産業株式会社

蔵王産業ハイライト

私たち蔵王産業は、
クリーンな労働環境や生活環境づくりに積極的に取り組み、
高品質な環境クリーニング機器を提案、提供する企業です。

● 売上高
9,647 百万円
前期比 7.8 %増

● 経常利益
1,406 百万円
前期比 5.3 %増

● 自己資本比率
87.1 %
前期比 1.6ポイント増

● 1株当たり純資産
2,296.65 円
前期比 96.91円増

● 配当金
109 円
前期比 31 円増

● 配当性向
59.2 %
前期比 21.1ポイント増

前期に引き続き、売上・利益とも過去最高を記録。システムを一新し、営業改革を推進中です。

代表取締役社長　**沓澤 孝則**

当期2023年3月期の業績についてお聞かせください。

2023年３月期における業績については、業務用、コンシューマー向けとも順調に推移し、売上高9,647百万円、営業利益1,378百万円、経常利益1,406百万円、当期純利益1,054百万円となり、当初予想を上回りました。

法人向け（業務用）ではコロナ禍の影響が一段落し、対面での提案営業の機会が増え、展示会なども開催されるようになってきています。製造業においても円安などで国内回帰の傾向が強まり、設備投資が回復してきています。東京などでは新規ビルの建設が続き、ビルメンテナンス業界の業績も上向いてきていることが挙げられます。こうしたことから、業務用においては、清掃・洗浄機器の各商品群の販売が好調でした。特に、スティック型サイクロンバキュームクリーナー「スピアーサイクロンプロ」は、低コストで女性や高齢者にも扱いやすい商品ということで、今まで取引のなかったビルメンテナンス業者への浸透や当社の認知度向上にもつながりました。

一方、コンシューマー向けにおいては、前期に引き続き、家庭用リンサー及び小型スチーム機器の販売が好調で、売上に大きく寄与しました。

前期実績との比較では、売上高、営業利益、経常利益とも前期を上回りました。当期純利益については前期に完全子会社であるエタニ産業株式会社を吸収合併し、株式差益が前期の特別

利益に計上されていたため、数字的には減益になっていますが、実質的には各指標とも過去最高になりました。

当期取り組まれた具体的な施策やトピックスがありましたらご紹介ください。

新商品の開発には１年～２年という時間が必要になります。ここ数年はコロナ禍の影響で、海外メーカーとの直接交渉ができず、半導体やモーターなどの部品不足で、入荷の遅れが長期化しており、海外メーカーも新規開発が進まない状況が続き、画期的な新商品の投入には至りませんでした。

ただし、バックモニターの搭載や低床化などにより差別化を図った搭乗式自動床洗浄機「スクラブメイトＭＭｇ730Plus」などは引き続き好調で、順次進めている各商品の抗菌対応も好評であることから、モデルチェンジを機会に抗菌化を進めています。

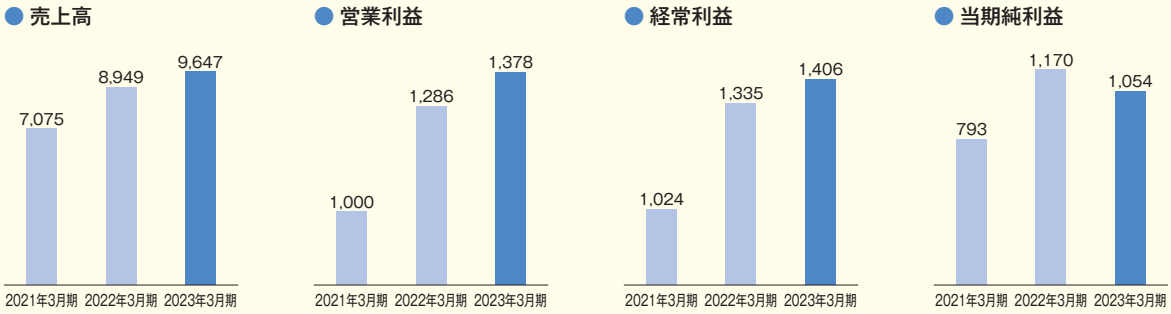
また、強アルカリイオン電解水生成機「ＺＫシリーズ」については、飲食店等の小規模店での使用をターゲットに発売した卓上タイプの「ＺＫ－mini」の市場の浸透を図りましたが、思うように進みませんでした。今後は、ターゲットの再考を含め、改めて販売戦略を練り直していきたいと思っています。

当期は、人手不足や働き方改革で高まる自動化ニーズに対応した掃除ロボットの開発も進めてきました。ユーザーからの反応は良く、現在、レンタルやリースにするのかといったことを含め、本格的な市場投入を視野に、具体的な施策を詰めています。

来期の商品開発の方向性についてお聞かせください。

当社ではこれまで「メーカー機能を持った専門商社」として、主に海外

財務ハイライト（単位：百万円）



※2021年3月期までは連結の数字を記載しております。

メーカーと共同で新商品を開発し、日本でフィールドテストを行ったうえで、日本市場向けに改良をし、日本のお客様に商品を提供してきました。しかし、こうしたビジネスモデルでは、もはや競合他社を抑え、市場のニーズに迅速かつ的確に応えていくことは難しくなっています。

そこで、2023年４月に本社に組織を改廃し開発・企画の専門部署を立ち上げました。日々全国の営業活動の中から上がってくる市場のニーズを吸い上げ、ニーズにマッチした付加価値の高い新商品の企画や開発を手掛けるだけでなく、商品の売り方や提案の仕方、営業ツールの制作を含め、トータルに取り組み、営業との橋渡しになる役割を担っています。

また、仕入先に関しても、今までは欧米を中心にしてきましたが、価格競争ということでは中国、インド、東南アジアなど、欧米以外の国にも目を向け、新たな仕入先メーカーの開拓を積極的に進めていきます。特に、中国や東南アジアは欧米に比べ日本に近く、商品も船で１週間程度で日本に届きますし、輸送運賃も安く済み、販売価格を抑え、価格競争力を高めることが可能になります。既存の欧米メーカーとの共同開発をより密接に連携するとともに、新規メーカーの開拓も両輪で進めていきます。

一方で、当社から「このような商品をつくって欲しい」と提案していくためには、人材の採用や育成を含め、メーカー機能の強化も進めていく必要があると認識しています。

Q 今後の営業戦略や社内体制の改革についてお聞かせください。

A デジタル化投資を行い、基幹システムを含めた社内のシステムを数十年ぶりに一新し、2023年４月から運用をスタートさせました。今ではどこにいても社内システムがつながるようになっています。これにより、テレワークや在宅での業務も可能になり、営業の効率化につながるものと認識しています。

また、当社の営業スタイルとして、ユーザー先へ当社の商品を持ち込み、実演をして、その良さやメリットを知ってもらうということが強みになっていますが、動画やITツールなどを活用することにより、こうした営業のプロセスを短縮することができます。例えば、今まで３回ユーザー先に通っていたのを実演が１回で済むようになれば、営業の効率化が実現できますし、営業車のガソリン代など環境負荷の低減にもつながってきます。

ただし、システムの刷新で、今までの手法を全て捨てて、新たな手法を取り入れていくということになりますので、手法に慣れるまでには多少時間がかかると思っています。システムにより、営業の手法を変え、属人化を排して社員の共有化が進めば、ベテランから新人までのスキルや知識の底上げにつながると期待しています。

一方、売上の一端を担う全国の販売代理店とは、長年の取引の蓄積の中で強固な関係を築い

ていますが、新設した部署を軸にした新商品の投入や新たな仕組みなどを加え、当社商品を積極的に取り扱っていただくための動機付けなど、関係の強化を継続していきます。

株主還元を含め、株主の皆様へメッセージをお願いします。

A　前期、当期と連続して、売上・利益とも過去最高を更新することができました。ただし、2024年３月期については、若干保守的な予想を立てています。好調だったコンシューマー向けの家庭用リンサーが４年目を迎え、受注の息切れ感が否めず、また、物価上昇に対応し、当社でも賃金のベースアップを実施したことや、システム一新により減価償却費が発生することに加えて、2024年問題と言われる物流業界でのドライバーの働き方改革への影響やガソリン代、電気代などエネルギーコストの高止まり等、コスト増が懸念されます。

３年後の70周年を、株主の皆様や従業員、取引先等ステークホルダーと一緒に笑顔で迎えるためにも、来期の第68期が大きな鍵になると考えています。現在進行形で蒔いた種の様々な施策を第69期に大きく育て、第70期からその果実を享受していけるよう、来期の第68期でその足固めをしていきたいと考えています。

配当につきましては、業績だけでなく、長期的な視点で当社の株式を保有していただくため、70周年までの配当について、これまでの業績に

よる配当性向重視から、業績に関係なく１株当たり年間100円以上の安定配当の方針に変更いたしました。

また、企業の社会的責任を意識し、メーカーと共同した商品のリサイクル化をはじめとする環境対応や、SDGsへの取り組みにも力を入れていきたいと考えています。株主の皆様におかれましては、これからも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業の概要

清掃機器部門

売上高

1,606 百万円

主要商品	動力清掃機、真空掃除機、カーペット清掃機、泥層・氷層除去機

当期は、スティック型バキュームクリーナーの販売が堅調だったこと等から、増収となりました。

●搭乗式大型動力清掃機「AM9D－Ⅲ LH」

日本専用モデルとして左走行に合わせて運転席、サイドブラシを左側に配置したことでサイドブラシの動きを直接確認しながら、作業することができ、安全性と効率性が高まり、レンタル業界を中心に好評を得ています。

●スティック型サイクロンバキュームクリーナー「スピアーサイクロンプロ」

高耐久かつ高効率で高出力が出せるカーボンブラシレスモーターを採用。カーペットはもちろん店内のセラミック床やフロアマット、自動ドアの溝など、現場に要求される様々なシーンに対応する回収能力を有しています。

洗浄機器部門

売上高

4,787 百万円

主要商品	自動床洗浄機、カーペット洗浄機、カーペット濯ぎ洗い機、高圧洗浄機、スチーム洗浄機、振動式洗浄機

当期は、コンシューマー向けの家庭用リンサーの販売が伸長したこと等から、増収となりました。

●搭乗式自動床洗浄機「スクラブメイトMMg730 Plus」

バックモニターや後進時の衝突防止センサー、自動ブレーキ等を採用。最小回転幅は1,950mmと小回り性抜群であるほか、低床設計により運転席を低くしたことから、安心して操作ができ、現場から大変好評を得ております。

●OEM供給によるコンシューマー向け商品「家庭用リンサー」

業務用商品の開発で培ったノウハウを活用した家庭用リンサーはカーペットやソファ等、誰でも簡単に水洗い洗浄することができる画期的な商品でホームセンター等での販売が伸長しました。

その他部門

売上高

3,253 百万円

主要商品	強アルカリイオン電解水生成機、部品及びメンテナンスサービス、清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリー、水質浄化剤、一般家電製品、その他

当期は、清掃･洗浄機器用アクセサリーの販売が堅調だったこと等から、増収となりました。

●強アルカリイオン電解水生成機「ZKプレミアム」

通常のアルカリ濃度のpH12.5に対しpH13.1の濃縮イオン電解水を生成することが可能となりました。濃度の違いは洗浄力となって表れ、ノンケミカルの洗浄へ欠かせない商品の一つとなっております。

●プール洗浄剤「アクアピル」

陽イオン高分子凝集剤が水中の微粒子を凝集することで清掃フィルターにかかりやすい状態にし、水の透明度を高めます。

財務諸表

❶流動資産

主として現金及び預金が1,174百万円減少したものの、有価証券が799百万円、商品が499百万円、受取手形が263百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて4.3%増加し、11,057百万円となりました。

❷固定資産

主としてソフトウエア仮勘定が81百万円増加したものの、繰延税金資産が84百万円、建物が49百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて1.9%減少し、4,064百万円となりました。

❸流動負債

主として支払法人税等が140百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて15.1%減少し、938百万円となりました。

❹固定負債

主としてその他の固定負債が131百万円増加したものの、役員退職慰労引当金が137百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて2.6%減少し、1,012百万円となりました。

❺純資産合計

主として繰越利益剰余金が596百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて4.6%増加し、13,170百万円となりました。

CHECK!

2023年3月期決算の詳細は
当社HP《IR情報》に掲載しています。
https://www.zaohnet.co.jp/ir/

● 貸借対照表

（単位：百万円）

	科　目	第67期（2023年3月31日現在）	第66期（2022年3月31日現在）
	（資産の部）		
❶	流動資産	11,057	10,599
	現金及び預金	2,764	3,938
	受取手形	787	524
	売掛金	1,611	1,540
	有価証券	4,399	3,599
	商品	1,439	940
	前渡金	1	6
	前払費用	18	19
	その他	34	29
	貸倒引当金	△0	△0
❷	固定資産	4,064	4,141
	有形固定資産	3,372	3,419
	建物	1,200	1,250
	構築物	36	33
	機械装置	6	6
	車輌運搬具	7	6
	工具器具備品	12	13
	土地	2,109	2,109
	無形固定資産	176	95
	投資その他の資産	515	626
	投資有価証券	253	265
	出資金	23	23
	繰延税金資産	192	277
	その他	45	59
	貸倒引当金	△0	△0
	資産合計	15,121	14,740
	（負債の部）		
❸	流動負債	938	1,105
	支払手形	－	8
	買掛金	217	240
	未払金	215	158
	未払費用	170	154
	未払法人税等	150	290
	未払消費税等	－	97
	賞与引当金	116	112
	商品保証引当金	16	10
	その他	52	32
❹	固定負債	1,012	1,038
	退職給付引当金	580	600
	役員退職慰労引当金	－	137
	再評価に係る繰延税金負債	172	172
	その他	259	128
	負債合計	1,950	2,144
	（純資産の部）		
	株主資本	12,869	12,261
	資本金	2,077	2,077
	資本剰余金	2,402	2,402
	利益剰余金	9,135	8,539
	自己株式	△745	△757
	評価・換算差額等	300	334
	その他有価証券評価差額金	△16	△8
	繰延ヘッジ損益	△13	11
	土地再評価差額金	331	331
❺	純資産合計	13,170	12,595
	負債・純資産合計	15,121	14,740

● 損益計算書

（単位：百万円）

科　目	第67期（2022年4月1日～2023年3月31日）	第66期（2021年4月1日～2022年3月31日）	
売上高	9,647	8,949	❻
売上原価	5,488	4,966	
売上総利益	4,159	3,982	
販売費及び一般管理費	2,780	2,696	
営業利益	1,378	1,286	
営業外収益	28	48	
経常利益	1,406	1,335	
特別利益	―	42	
税引前当期純利益	1,406	1,377	
法人税、住民税及び事業税	252	252	
法人税等調整額	99	△44	
当期純利益	1,054	1,170	

● キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	第67期（2022年4月1日～2023年3月31日）	第66期（2021年4月1日～2022年3月31日）	
営業活動によるキャッシュ・フロー	178	1,295	❼
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92	△87	❽
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459	△361	❾
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	6	
現金及び現金同等物の増減額	△374	854	
現金及び現金同等物の期首残高	7,538	6,525	
現金及び現金同等物の期末残高	7,163	7,538	

❻売上高

主にコンシューマー向けの家庭用リンサーの販売が伸長したこと等から、前年同期比7.8%の増収となりました。

❼営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、178百万円となりました。収入の主な要因は、税引前当期純利益が1,406百万円であり、支出の主な要因は、棚卸資産の増加額が499百万円、法人税等の支払額が376百万円、売上債権の増加額が333百万円あったこと等によるものであります。

❽投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、92百万円となりました。支出の主な要因は、無形固定資産の取得による支出が81百万円あったこと等によるものであります。

❾財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、459百万円となりました。支出の主な要因は、配当金の支払額が458百万円あったこと等によるものであります。

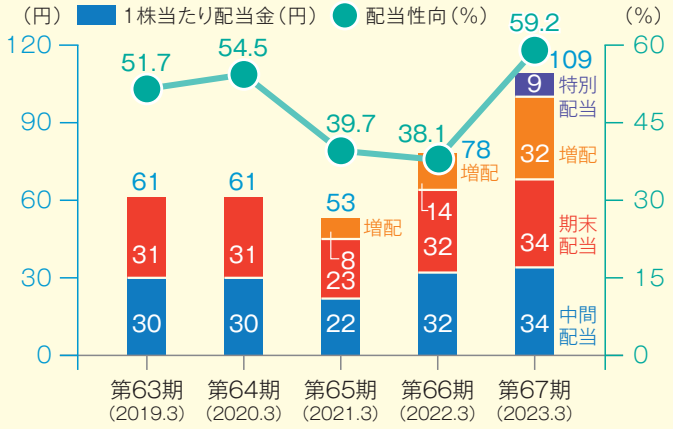
株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益配分と会社の体質強化のための内部留保との調和を図りながら、配当につきましては配当性向重視の方向を維持してまいります。

また、株主の皆様への安定的な利益還元として3年後に迎える70周年までの配当につきましては、株主の皆様に長期的な観点で当社株式を保有していただくため、当社の事業展開や財務状況のほか会計基準の変更等特殊要因による業績変動等を総合的に勘案し、1株当たり100円00銭以上の安定的な配当を基本方針としております。

なお、当期の1株当たり期末配当金につきましては、当期の業績等を勘案し当初予想から41円増配の75円とし、中間配当34円を加えて年間配当は109円といたしました。

1株当たり配当金と配当性向



会社情報・株式情報

● 会社の概況（2023年6月23日現在）

社　　名　蔵王産業株式会社

本　　社　東京都江東区毛利一丁目19番5号
TEL 03-5600-0311

資 本 金　20億7,776万円

役　　員

代表取締役社長	沓澤孝則
常務取締役	竹村　洋
常務取締役	御幡純平
取締役	村上正俊
取締役	会田　南
常勤監査役	大沼源吉
監査役	川添利賢
監査役	宮崎雅俊

営業品目　動力清掃機、カーペット清掃機、泥層・氷層除去機、真空掃除機、自動床洗浄機、カーペット洗浄機、カーペット濯ぎ洗い機、高圧洗浄機、スチーム洗浄機、振動式洗浄機、部品及びメンテナンスサービス、清掃・洗浄機用消耗品及びアクセサリー、その他

営 業 所

札幌営業所	仙台営業所	宇都宮営業所
水戸営業所	船橋営業所	川越営業所
東京営業所	横浜営業所	新潟営業所
静岡営業所	金沢営業所	名古屋営業所
京都営業所	大阪営業所	神戸営業所
岡山営業所	広島営業所	高松営業所
福岡営業所	鹿児島営業所	商事営業本部
物流センター及び試験研究室		

● 株式の状況（2023年3月31日現在）

発行可能株式総数 22,000,000株
発行済株式総数　5,734,751株（自己株式531,249株を除く）
自己株式数　531,249株

● 株主の状況

総株主数　25,926名

● 大株主の株式所有状況

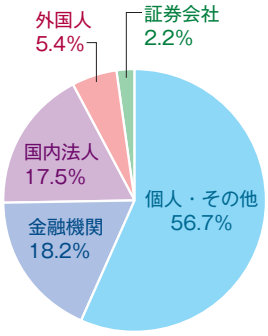
（単位：株）

	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	313,600	5.47%
㈱TNNアドバイザーズ	313,600	5.47%
㈱三井住友銀行	276,000	4.81%
㈱千葉銀行	230,000	4.01%
学校法人麻生塾	230,000	4.01%
蔵王産業社員持株会	182,380	3.18%
東京美装興業㈱	158,400	2.76%
土方孝悦	154,900	2.70%
東京海上日動火災保険㈱	120,000	2.09%
照井雅夫	89,820	1.57%
合計	2,068,700	36.07%

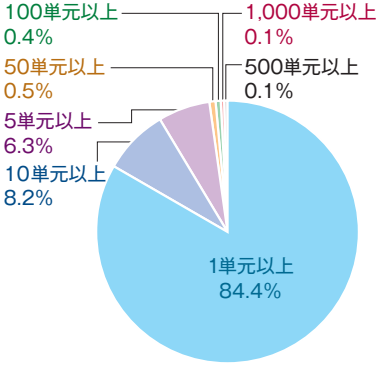
（注）持株比率は自己株式を控除して計算しております。

● 株式分布状況

所有者別株式数構成比



所有株数別株主数構成比



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL：0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

● 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

蔵王産業株式会社

〒135-0001 東京都江東区毛利1-19-5 TEL:03-5600-0311 FAX:03-5600-0516